

一 般 質 問 通 告 書

令和5年8月15日

議 会 議 長 様

議席番号 11 番

議員氏名 原 田 壽 々 子

質 問 事 項	質 問 要 旨	指 定 答 弁 者
1. 窪田町長の政策展開に対する方針を問う	昨年8月、多くの民意を得て町長になられたわけですが、町長と議員の決定的な違いは、その権利にあります。町長が掲げたいくつかのマニフェストに多くの町民が期待をしていると思いますので、一つ一つ検証しつつ、より良い町づくりに協力させていただく所存です。 しかしながら、非常に曖昧なご答弁が6月議会まで続いておりましたので、町長は具体的に何が一番やりたいのか、またはやるべきとお考えなのか、今回は選挙戦におきまして特に強調されていた病院の誘致、すなわち医療に絞って伺います。 (1) 町長在任期間、つまり令和7年度までのロードマップには、「誘致に向けた準備」で終結している。病床数拡大の要望以外に具体的な準備とは何を指すのか。また、その準備に4年かかるとした根拠は。 (2) 病院の誘致「医療過疎を解消して町民の安心を」とうたっているが、杉戸町における医療過疎とは。 (3) 二次救急医療機関の役割を担う病院とは、何を指すのか。 (4) 町長のイメージしている病院の誘致が仮に成功した場合、病院経営と杉戸町全体の収支バランスについての町長自身の見解は。	町長 副町長 健康支援課長 総合政策課長 担当課長

8月15日 午前・午後 3時30分 受理

質 問 事 項	質 問 要 旨	指 定 答 弁 者
2. かかりつけ医へのタクシー補助制度を導入すべきでは	いつ襲ってくるかわからない病は、軽度から重度とあるものの、その認定と病人の苦痛度合は必ずしも一致しません。日頃は、かかりつけ医や地元の病院に、既往症の薬を取りに行ったり、定期的な検診に行く手段として、ご自身で自転車や車の運転、または徒歩により誰にも頼らずに通院できている人でも、突然の腹痛や、蕁麻疹、高熱、ぎっくり腰、さらには妊産婦の突然の破水等、動けなくなる時にどこにも助けを求められず、発見が遅れるというケースが浮き彫りになってきました。 どこにつれていかれるかわからない救急車ではなく、地元のかかりつけ医を受診したいというのが、日常生活におけるニーズであると認識しています。 杉戸町では一人世帯や高齢者は増加の一途ですが、頼れる近隣者や家族はほとんど働いているのが実情です。ましてや、「病気」では助けを求めづらいという日本人特有の遠慮文化が課題を複雑化していると考えます。そして、自治体の役割はより繊細になってきていると言えます。 そこで伺います。 (1) タクシー補助のシステムの構築を直ちに行うべきでは。 (2) (1) についてスピード感をもって構築するために、杉戸町のタクシー会社及び町内の病院との協議体を立ち上げる考えは。 (3) 妊産婦が突然破水する等の緊急事態が起きた時、あらかじめタクシー会社に登録するシステムがある。杉戸町においても推進及び支援をすべきと考えるが、見解は。	町長 副町長 住民協働課長 総合政策課長 健康支援課長 福祉課長 高齢介護課長 担当課長

質 問 事 項	質 問 要 旨	指 定 答 弁 者
3. 杉戸高野台駅西口の歩道整備を早急に行うべきでは	杉戸高野台駅西口の駅前ロータリー周辺の歩道整備は、応急処置でこれまで凌いできた経緯がございます。 しかし、昨今、自転車に乗った方の転倒事故、歩いてつまずき膝のさらにヒビが入った事故、幼少期のお子様の転倒事故や、三輪車やベビーカーが進まないなどのお声が増えております。このような事故においては、本人の不注意だけではすまされないところまで来ています。 杉戸高野台駅は杉戸町の唯一の駅であり玄関口です。7月には、高野台ゆかた風鈴祭りが開催されるなど、1年を通じて多くのイベントが駅前周辺で行われ、賑わいを創出しています。 直ちに歩道整備を行うべきと考えますが、以下伺います。 (1) 高野台地域在住の窪田町長の認識と見解は。 (2) 整備計画の策定予定や時期は。 (3) 町長が公約にしている下野久喜線との兼ね合いは。	町長 副町長 都市施設整備課長 危機管理課長 環境課長 総合政策課長 担当課長